

平成 25 年度事業報告

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

I 会務運営

(1) 総会

1) 定時社員総会

第 46 回定時社員総会を平成 25 年 6 月 21 日 (金) 14 時 30 分から、東京都千代田区・都市センターホテルにおいて開催し、下記の議案を付議した。出席代議員数は 73 名 (うち委任状出席 49 名) で、定款第 19 条第 1 項に定める定足数 (総代議員数 80 名の過半数以上) を満たしており、社員総会が成立した。

- i) 平成 24 年度事業報告、同計算書類等報告を原案どおり承認、可決した。
- ii) 任期満了に伴う役員を選任については、原案どおり理事 13 名、監事 1 名を承認可決した。
- iii) 8 名を名誉会員に推挙する提案を、原案どおり承認、可決した。
- iv) 平成 25 年度事業計画、同収支予算をそれぞれ報告した。

2) 臨時社員総会

臨時社員総会を平成 25 年 12 月 26 日 (木) 13 時から、本学会 (東京都千代田区) にて開催し、下記の議案を付議した。出席代議員数は 76 名 (うち委任状出席 66 名) で、定款第 19 条第 1 項に定める定足数 (総代議員数 80 名の過半数以上) を満たしており、社員総会が成立した。

- i) 定款の一部変更の件 (現行定款の第 14 条、第 15 条、第 39 条、第 43 条、第 5 条および別表の内容、関連法令の規定に整合する内容等への変更) を原案どおり、承認、可決した。
- ii) 理事 1 名選任の件を原案どおり承認、可決した。

(2) 理事会

1) 定例理事会

定例理事会を 5, 6, 7, 8, 10, 12, 2, 3 月の合計 8 回開催した。主要な処理事項は、次のとおりである。

- i) 平成 24 年度事業報告案、同計算書類等報告案、平成 25 年度事業計画、同収支予算を審議・承認した。
- ii) 会員の入退会を承認した。
- iii) 2014 年日本コンクリート工学会賞受賞者として、論文賞 3 点 (受賞者 11 名)・技術賞 3 点 (受賞者 12 名)・作品賞 3 点 (受賞者 13 名)・奨励賞 6 点 (受賞者 6

名), および功労賞 9 名を決定した。

iv) 2013 年度コンクリート技士・同主任技士試験およびコンクリート診断士試験の合格者を決定した。

2) 臨時理事会

臨時理事会を平成 25 年 6 月 21 日に開催して, 宮川豊章理事を副会長に選任した。

(3) 登録関連事項

[登記]

- 1) 平成 25 年 6 月 28 日に, 役員の変更登記 (一部改選) を完了した。
- 2) 平成 25 年 7 月 30 日に, 法人の公告方法の変更 (ホームページのアドレス), 会計監査人の重任登記を完了した。
- 3) 平成 25 年 9 月 12 日に, 役員の変更登記 (退任 1 名) を完了した。
- 4) 平成 25 年 12 月 27 日に, 役員の変更登記 (就任 1 名) を完了した。
- 5) 平成 26 年 2 月 27 日に, 役員等の法人に対する責任の免除に関する規定の更正登記を完了した。

[内閣府関係]

- 1) 平成 25 年 6 月 28 日に, 平成 24 年度事業報告および平成 24 年度財務諸表等の資料を内閣府に提出した。
- 2) 平成 25 年 7 月 25 日に, 理事 1 名の死亡による欠員および理事 12 名が任期満了により退任することによる理事 13 名の選任, 並びに監事 1 名が任期満了により退任することによる監事 1 名の選任の変更届出書を内閣府に提出した。
- 3) 平成 25 年 10 月 23 日に, 理事 1 名の死亡による退任の変更届出書を内閣府に提出した。
- 4) 平成 26 年 1 月 20 日に, 一部事業内容の変更届出書および定款の一部変更ならびに理事 1 名選任の変更届出書を内閣府に提出した。
- 5) 平成 26 年 3 月 28 日に, 平成 26 年度事業計画および平成 26 年度収支予算書を内閣府に提出した。

(4) 委員会

委員会	委員長	委員数	WG数	委員会開催数	
				委員会	WG等
企画調整委員会	魚本 健人	9	—	7	—
総務財務委員会	藤井 敏道	8	—	3	—
定款・規則改定委員会	藤井 敏道	10	1	1	2
役員候補推薦・調整委員会	睦好 宏史	16	—	2	—
学会賞選考委員会	阿部 道彦	22	2	2	2
長期事業・財政安定化委員会	丸山 久一	13	2	5	3

研究委員会	宇治 公隆	20	1	3	1
技術委員会	阿部 道彦	13	—	2	—
標準化委員会	阿部 道彦	12	—	2	—
資格・講習委員会	宮川 豊章	10	—	1	—
国際委員会	橘高 義典	14	—	4	—
図書編集委員会	梅原 秀哲	4	—	2	—
支部長会議	阿部 道彦	12	—	1	—
広報普及委員会	藤井 敏道	8	—	1	—
コンクリート工学編集委員会	梅原 秀哲	39	12	11	16
コンクリート工学論文集編集委員会	宇治 公隆	20	—	6	—
ACT 編集委員会	前川 宏一	13	—	5	—
文献調査委員会	衣笠 秀行	20	2	11	19
コンクリート工学年次大会委員会	阿部 道彦	14	—	2	—
コンクリート工学年次大会 2013(名古屋)実行委員会	梅原 秀哲	75	7	16	—
コンクリート工学年次大会 2014(高松)実行委員会	島 弘	53	4	9	—
コンクリート工学年次論文査読委員会	加藤 大介	38	—	3	1
ASR 診断の現状とあるべき姿研究委員会	山田 一夫	28	2	2	5
コンクリート分野における海水の有効利用に関する研究委員会	大即 信明	35	5	2	12
コンクリート工学分野における研究史の編纂と研究手法の体系化研究委員会	今本 啓一	24	—	10	—
コンクリートのトレーサビリティ確保技術に関する研究委員会	杉山 央	17	4	4	14
放射性物質の封じ込めとコンクリート材料の安全利用調査研究委員会	橘高 義典	26	4	4	15
コンクリート構造物のインフラドック構築フェージビリティ調査研究委員会	大津 政康	23	3	3	3
フライアッシュと細骨材を事前混合したコンクリート用材料の品質基準および使用方法に関する研究委員会	梶田 佳寛	27	2	2	5
性能設計対応型ポーラスコンクリートの施工標準と品質保証体制の確立研究委員会	畑中 重光	22	3	4	4

混和材を大量使用したコンクリートのアジア地域における有効利用に関する研究委員会	野口 貴文	20	2	4	3
コンクリートの技術基準に関する情報活用手法研究委員会	棚野 博之	19	2	3	6
物理化学的解釈に基づく電気化学的計測手法の体系化に関する研究委員会	山口 明伸	18	2	2	8
コンクリートの基本技術調査委員会	十河 茂幸	50	6	3	19
マスコンクリートソフト作成委員会	小野 定	21	1	6	2
コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会	武若 耕司	15	2	—	8
マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂調査委員会	佐藤 良一	41	5	1	24
既存コンクリート構造物の性能評価指針作成委員会	三橋 博三	24	6	—	17
サステナビリティ委員会	堺 孝司	24	6	1	21
コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会	早川 光敬	29	4	2	9
ISO/TC71 対応国内委員会	勅使川原正臣	61	6	1	29
アジアモデルコード研究委員会	杉山 隆文	28	4	2	2
JCI 規準委員会	十河 茂幸	5	—	1	—
I C C S 13 実行委員会	堺 孝司	22	3	2	—
S C M T 3 実行委員会	宮川 豊章	33	3	1	2
JCI 創立 50 周年記念事業実行委員会	丸山 久一	24	3	2	19
JCI-ACI Collaboration Committee	丸山 久一	10	—	2	—
コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針普及委員会	大即 信明	18	3	3	4
電子情報化委員会	甲斐 芳郎	12	1	4	3
既設コンクリート構造物の維持管理と補修・補強技術に関する特別委員会	宮川 豊章	57	5	2	17
未利用資源の有効利用に関する FS 委員会	久田 真	31	4	4	6
コンクリート技術講習会委員会	大久保孝昭	15	1	3	3
コンクリート技士試験委員会	早川 光敬	37	5	2	21
コンクリート技士研修委員会	横田 弘	21	3	3	4
コンクリート診断士委員会	名和 豊春	18	—	2	—

コンクリート診断士講習会小委員会	梅原 秀哲	20	1	3	5
コンクリート診断士試験小委員会	橘高 義典	50	5	1	39
コンクリート診断士研修小委員会	河野 広隆	24	1	2	2
ACF(アジアコンクリート連盟)対応委員会	野口 貴文	13	—	3	—
計		1405	138	195	375
				570	

II 公益目的事業

[公1 コンクリートに関する調査研究事業]

1. 調査研究事業

(1) 研究委員会所管の委員会

(A) 平成 25 年度で終了した研究専門委員会

- 1) ASR 診断の現状とあるべき姿研究委員会 (平成 23-25 年度)
- 2) コンクリート分野における海水の有効利用に関する研究委員会 (平成 24-25 年度)
- 3) コンクリート工学分野における研究史の編纂と研究手法の体系化研究委員会
(平成 24-25 年度)
- 4) コンクリートのトレーサビリティ確保技術に関する研究委員会 (平成 24-25 年度)
- 5) 放射性物質の封じ込めとコンクリート材料の安全利用調査研究委員会
(平成 24-25 年度)

(B) 平成 26 年度に継続する研究専門委員会

- 1) コンクリート構造物のインフラドック構築フィージビリティ調査研究委員会
(平成 24-26 年度)
- 2) フライアッシュと細骨材を事前混合したコンクリート用材料の品質基準および使用方法に関する研究委員会
(平成 24-26 年度)
- 3) 性能設計対応型ポーラスコンクリートの施工標準と品質保証体制の確立研究委員会
(平成 25-26 年度)
- 4) 混和材を大量使用したコンクリートのアジア地域における有効利用に関する研究委員会
(平成 25-26 年度)
- 5) コンクリートの技術基準に関する情報活手法研究委員会 (平成 25-26 年度)
- 6) 物理化学的解釈に基づく電気化学的計測手法の体系化に関する研究委員会
(平成 25-26 年度)

(2) 技術委員会所管の委員会

- 1) コンクリート基本技術調査委員会
- 2) マスコンクリートソフト作成委員会
- 3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会
- 4) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂調査委員会
- 5) 既存コンクリート構造物の性能評価指針作成委員会
- 6) サステナビリティ委員会

(3) 支部研究委員会

- 1) (北海道支部) 鉄筋コンクリート構造物のモデルコード研究委員会
- 2) (北海道支部) 北海道におけるコンクリート研究の変遷調査研究委員会
- 3) (北海道支部) 積雪寒冷地の既存コンクリート構造物に適用する非破壊・微破壊試験方法研究委員会
- 4) (中部支部) ポーラスコンクリートの施工標準と品質保証体制の確立に向けた研究委員会
- 5) (中部支部) 東山動植物園恐竜像調査保存委員会
- 6) (中部支部) 生コン工場で製造されたフライアッシュコンクリートの耐久性評価と延命効果予測研究委員会
- 7) (近畿支部) 若手研究者・技術者を対象とした研究プロジェクト
- 8) (中国支部) コンクリート構造物の目視点検への情報技術活用調査研究委員会
- 9) (中国支部) 打設管理記録に基づくコンクリート構造物の品質確保に関する研究委員会
- 10) (四国支部) フライアッシュコンクリートの耐久性評価研究委員会
- 11) (四国支部) コンクリートの強度に及ぼす養生条件に関する研究委員会
- 12) (四国支部) 鉄筋コンクリート造耐震壁の開口の取り扱いに関する研究委員会
- 13) (四国支部) 四国の生コン技術力活性化委員会
- 14) (四国支部) 塩害劣化を受けた鉄筋コンクリート構造物の耐荷力評価委員会
- 15) (九州支部) コンクリート埋込アンカーの信頼性の向上研究専門委員会
- 16) (九州支部) 吹付け工法における施工と品質の評価手法研究専門委員会
- 17) (九州支部) 温暖化環境下におけるコンクリート施工品質の確保に関する研究成果報告委員会
- 18) (九州支部) コンクリート構造物の劣化実態の評価分析研究成果報告委員会

*** 研究専門委員会, 技術委員会等の活動報告**

(1-A-1) TC115FS ASR 診断の現状とあるべき姿研究委員会 (平成 23-25 年度)
コンクリート構造物における ASR のリスクの考え方を整理するとともに, ASR に対する

診断と抑制対策のあるべき姿について、4つのWG（最新技術、抑制対策、診断フロー、共通試験）を設置して検討を行った。さらに、海外の最新情報の収集から、我が国におけるASRに対する診断と抑制対策について審議した。これらの成果として、構造物の重要度に応じた診断方法、コンクリートプリズム試験および抑制対策を提案した。また、平成26年7月～9月に開催する報告会（地方開催も予定）に向けた準備を行った。

(1-A-2) TC121A コンクリート分野における海水の有効利用に関する研究委員会

（平成24-25年度）

将来的な水不足問題および遠隔離島や沿岸域での効率的なコンクリート構造物の建設に及ぼす問題の解決に資するため、練混ぜ水、養生水および清掃水などへの海水の有効利用について、事例調査WG、物性評価WG、性能向上WGおよび製造施工WGを設けて調査し、さらに英文化WGを設けて成果の英訳を行った。具体的には、海水を用いたコンクリートの①実構造物での事例収集、②物性把握、③性能向上および補強材に関する情報収集、④実製造・施工における課題抽出を行い、また、海外通信委員を通じてコンクリート分野における海水の有効利用に対する諸外国の動向を調査した。成果は、平成26年9月に報告会を実施する予定であり、さらに、海外でのシンポジウムの開催を計画・準備中である。

(1-A-3) TC122A コンクリート工学分野における研究史の編纂と研究手法の体系化研究委員会

（平成24-25年度）

コンクリート工学の材料・構造分野における研究の歴史を編纂することを目的として、特に、各分野に位置する先導的研究を対象に、文献調査のみならず、論文などには表れてこない当時の研究の背景、研究のきっかけおよび研究プロセスなどの情報を、主として当時の関係者へのインタビューを通して収集した。本委員会以前に行われた同様の取組み内容を会誌「コンクリート工学」特集号（2013年9月号）に取りまとめて投稿し、さらに11名の先達に対してインタビューを実施した。これらの成果について平成26年9月に報告会を開催する予定である。

(1-A-4) TC123A コンクリートのトレーサビリティ確保技術に関する研究委員会

（平成24-25年度）

コンクリートの製造から施工、維持管理に至るトレーサビリティ確保の実現に向けて、個々のコンクリートに識別記号を付与する技術を検討し、それに対応した製造・施工過程において記録・管理すべき履歴情報の整理を行った。さらに、ICタグやGPSを利用したトレーサビリティシステムについて、栃木県宇都宮市および山口県宇部市の建設施工現場において試行実験を行った。これらの研究活動成果を取りまとめ、平成26年6月27日に開催する報告会の準備を行った。

(1-A-5) TC124A 放射性物質の封じ込めとコンクリート材料の安全利用調査研究委員会

（平成24-25年度）

この委員会はJCI東日本大震災に関する特別委員会（平成23年度～平成24年度）のエネルギー関連施設小委員会および材料生産・施工小委員会の活動を引き継ぐ委員会であり、特に放射性物質の封じ込めとコンクリート材料の安全利用に関し詳細な検討を行った。委員会内には、①発電所からの漏洩防止、②汚染廃棄物の低減、③汚染廃棄物の封じ込め、④再利

用技術の4つのWGを設置して調査活動を行った。以上の活動成果を取りまとめ、平成26年6月にはJCI会議室（相互半蔵門ビル内）にて、また7月にはJCI年次大会（高松）にて成果報告を行う予定である。

(1-B-1) JCI-TC125FS コンクリート構造物のインフラドック構築フィージビリティ調査研究委員会 (平成24-26年度)

「人間ドック」と同様の「インフラドック」制度の構築がコンクリート構造物の健全性維持のために急務と考え、WG1（欠陥評価手法の検討）、WG2（現場検査手順の確立）およびWG3（検査制度の確立とコンクリート診断士の活用）において、インフラドック制度構築のための点検技術の整備を行い、検査メニューの提案と制度の確立、およびそれを担当する検査員へのコンクリート診断士の活用を検討した。また、本委員会の海外通信委員との連携の一環として、平成25年9月17、18日に開催された国際集会6th Kumamoto International Workshop on Acoustic Emission Fracture and NDE in Concrete - KIFA-6に協力した。

(1-B-2) TC126C フライアッシュと細骨材を事前混合したコンクリート用材料の品質基準および使用方法に関する研究委員会 (平成24-26年度)

ワーカビリティの改善、発熱の低減、長期強度の増進などのコンクリートの性能改善を示すフライアッシュを、専用貯蔵設備を持たないレディーミクストコンクリート工場においても有効に利用できるようにすることを目的に、有用性が高いと考えられるフライアッシュと細骨材との事前混合技術について、将来のJIS化を目指し、基準のあり方や解決すべき問題点を検討した。本研究は、平成26年7月までの受託研究（委託元：FAサンド研究会）であり、平成25年度は、技術の概要、用途、標準化の方向性、JIS原案、課題および実験研究の内容について検討した。

(1-B-3) JCI-TC131A 性能設計対応型ポーラスコンクリートの施工標準と品質保証体制の確立研究委員会 (平成25-26年度)

ポーラスコンクリートの施工標準と品質保証体制の確立を目的とし、品質・性能WG、現場WG、製品WGの3つのWGを設けて調査・研究活動を実施した。品質・性能WGでは「最近10年のポーラスコンクリートの研究動向調査」、製品WGでは「ポーラスコンクリート製品の現状と課題」、現場WGでは「用途別性能設計の事例」について取りまとめを行い、平成25年12月に名古屋市で開催した中間報告を兼ねたシンポジウムにおいて、2件の基調講演と3つのWGの活動報告を行った。

(1-B-4) TC132A 混和材を大量使用したコンクリートのアジア地域における有効利用に関する研究委員会 (平成25-26年度)

低炭素化社会の実現に向け我が国およびアジア各国で研究が進められている「ポルトランドセメントを混和材で大量置換したコンクリート」の普及を図るため、当該コンクリートの利用ガイドラインの策定に資する資料の整備を目的として、各委員の実施してきた混和材の利用についての研究成果を知識共有するとともに、海外調査WGと大量使用WGを設置して、世界各国における当該コンクリートの技術の現状調査、およびアジア地域の気象条件と副産場所を考慮したうえでのコンクリート構造物の種類・要求性能に応じた混和材の有効利用方策について、調査計画および実験計画に関する検討を行った。また、ACFとの連携を図

って課題に取り組むため、ACF内に同一テーマの研究委員会を設置するよう提案した。

(1-B-5) TC133A コンクリートの技術基準に関する情報活用手法研究委員会

(平成 25-26 年度)

コンクリートの技術基準(試験方法、品質基準、使用規準)に関する情報活用手法の確立に資することを目的として、コンクリートに係る JIS や国際規格の調査、およびこれらを引用している仕様書等の規定内容と元規格との関連性の整理等について、次の 2 つの WG 活動を行った。WG1 では、コンクリートおよびコンクリート構造物の材料、配合、施工および試験(検査)等に関する技術基準の現状と、それらの制定および改正の経緯等を調査した。WG2 では、道路橋示方書や公共建築工事標準示方書など、構造物の設計・施工に用いられている技術基準類に着目し、引用されている試験規格や学会規準等について調査した。

(1-B-6) TC134A 物理化学的解釈に基づく電気化学的計測手法の体系化に関する研究委員会

(平成 25-26 年度)

本委員会は、各種電気化学的計測手法をコンクリート構造物に適用する際に考慮すべき物理化学的理論を体系的に整理するとともに、実測結果に基づくケーススタディを通じた議論から、信頼性の高い測定の実施とその解釈方法に関するノウハウなどの実務に有益な資料をとりまとめることを目的として、初年度は、保護層 WG と鋼材 WG の 2 つの WG で、それぞれの対象範囲において利用される各種計測手法に対して物理化学的基礎理論およびコンクリート分野への応用理論を体系的に整理した。

(2-1) コンクリート基本技術調査委員会

コンクリートに関する基本技術に有用な情報を提供することを目的に、「打込み・締固め」、「細骨材品質」、「配合・調合」、「圧送」、「養生」、「不具合補修」の 6 WG において基本技術の整理を行った。このうち、不具合補修 WG では、「不具合の対処方法」を四国支部および東北支部の講習会において報告し、配合・調合 WG では、活動成果を会誌「コンクリート工学」に投稿・掲載した。また、細骨材品質 WG では、品質評価の共通試験結果をとりまとめ、同誌に投稿・掲載した。

(2-2) マスコンクリートソフト作成委員会

平成 25 年度の主な活動内容は、①JCMAC3 のバージョンアップ(最新バージョン: Ver.3.0.3)、②JCMAC3/パイプクーリング機能付与バージョン(多分岐配管に対応できる熱交換媒体として水および空気に適用可能)のリリース、③JCMAC-U(仮称)(ひび割れ発生後の耐荷力解析機能付与版)の作成、④JCMAC1 と JCMAC2 を統合した New JCMAC の作成、⑤JCMAC1, 2, 3 のサポート、⑥マスコンクリートソフト作成委員会報告会(開催地: 東京)の開催、⑦3 次元マスコンクリート温度応力解析ソフト JCMAC3 講習会(開催地: 札幌および大阪)の開催、⑧JCMAC3 の特許審査請求、であった。

(2-3) コンクリートの構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会

これまでに開発したコンクリート構造物の長期シミュレーションソフト「LECCA1」、「LECCA2」および「LECCA2 Lite」に加え、コンクリート構造物における劣化進行過程の予測を 3 次元的に解析することを可能とする目的で、①飛来塩分などの環境外力による構造物の劣化部位を 2 次元あるいは 3 次元で特定できる劣化外力評価モデル、②コンクリート中

の水分移動のモデル，③補修材料・工法の効果に関する高精度の評価モデル，④計算アウトプットが劣化構造物の構造解析へ連動できるシステム，等の開発に取り組んだ。そのほか，既に市販している LECCA2 や LECCA2Lite のユーザーからの質問事項に対して，その検証と対応を協議し，システムの不具合が確認された場合は適宜修正した。

(2-4) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂調査委員会

本委員会 1 回，主査幹事会 4 回，WG20 回を開催し，①自己収縮・膨張評価式の高精度化と適用範囲拡大（各種セメントの自己収縮評価式の提案根拠データの追加）のためのデータの取得とその分析，②温度ひび割れ指数の簡易評価式の改善のための実規模モデル構造物を対象とした数値解析の実施と結果の検討，③DEF（Delayed Ettringite Formation）の現状分析，海外指針等の調査および DEF の再現実験，④海外現場のマスコンひび割れ制御の実情・諸外国の制御規定に関するアンケート調査とその分析，⑤セメントおよび混和材料の EN と JIS との対応比較，ならびに構造物コンクリートの計測方法，試験方法・検査方法などの情報収集等を行い，活動成果を委員会報告としてとりまとめた。

(2-5) 既存コンクリート構造物の性能評価指針作成委員会

前年度までに推敲を重ねてきた指針（案）に対する JCI 標準化委員会の査読結果を反映させた「既存コンクリート構造物の性能評価に関する JCI 指針」を完成させるとともに，講習会の計画を立案した。

(2-6) サステナビリティ委員会

平成 25 年度も認証登録検討 WG，教科書検討 WG，評価ツール検討 WG，評価指標検討 WG，およびサステナビリティフォーラムで活動を行った。認証登録検討 WG ではコンクリートリサイクル及びコンクリート製品についての認証登録制度の試行を，教科書検討 WG ではテキストの改定と試験用問題の増補を，評価ツール検討 WG では評価ツールの開発を，評価指標検討 WG ではサステナビリティ宣言 8 項目の指標開発を行い，さらにサステナビリティフォーラムではウェブサイトのコンテンツの検討を行った。また，「コンクリート環境士（仮称）」資格制度のフィージビリティについて検討を行うために，テキストを使った講習会を東京と大阪で実施した。これらの検討の結果として，技術委員会に「コンクリート環境士（仮称）」制度と「認証登録」制度の提案を行った。

2. 標準化事業

(1) 標準化委員会

JCI 指針案「既存コンクリート構造物の性能評価指針」の制定，および「日本コンクリート工学会規準・指針の制定／改正に関する規定」の改正，の 2 件の審議を行った。

(2) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

- 1) 次の試験方法の JIS 改正原案を作成した。
 - ・ JIS A 1105:2007 細骨材の有機不純物試験方法
 - ・ JIS A 1111:2007 細骨材の表面水率試験方法

- ・ JIS A 1125:2007 骨材の含水率試験方法及び含水率に基づく表面水率の試験方法
- 2) 次の試験方法の JIS を検討し、平成 25 年度は改正しないことを決定した。
- ・ JIS A 1121:2007 ロサンゼルス試験機による粗骨材のすりへり試験方法
 - ・ JIS A 1126:2007 ひっかき硬さによる粗骨材の軟石量試験方法
 - ・ JIS A 1127:2010 共鳴振動によるコンクリートの動弾性係数、動せん断弾性係数及び動ポアソン比試験方法
 - ・ JIS A 1129-1:2010 モルタル及びコンクリートの長さ変化試験方法 第 1 部：コンパレータ方法
 - ・ JIS A 1129-2:2010 モルタル及びコンクリートの長さ変化試験方法 第 2 部：コンタクトゲージ方法
 - ・ JIS A 1129-3:2010 モルタル及びコンクリートの長さ変化試験方法 第 3 部：ダイヤルゲージ方法
 - ・ JIS A 1144:2010 フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法
 - ・ JIS A 1148:2010 コンクリートの凍結融解試験方法
 - ・ JIS A 1157:2010 コンクリートの圧縮クリープ試験方法

(3) ISO/TC71 対応国内委員会

1) ISO/TC71 および各 SC への対応

1 月 28 日から 31 日にかけて ISO/TC71 の第 20 回総会および各 SC が、オーストラリア・シドニーにて開催された。委員会から、SC 議長、幹事、およびエキスパートを会議に派遣した。

2) ISO/TC71 の SC 幹事国等業務の遂行

第 20 回 ISO/TC71 総会・各 SC にて、次の SC 議長・幹事の役割を務めた。

- ・ SC6 (コンクリートの新しい補強材)：議長および幹事
- ・ SC7 (コンクリート構造物の維持および補修)：議長
- ・ SC8 (コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント)：議長および幹事

3) ISO 規格化

日本から提案した次の ISO 規格が発行された。

- ・ ISO 14484 (繊維強化プラスチック (FRP) 材料を使用するコンクリート構造物の設計のための性能指針)

4) ISO 規格案 (CD, DIS, FDIS, 等) への対応

ISO/TC71 から提案された各種規格案等の投票 30 件 (FDIS 投票 1 件, DIS 投票 4 件, CD 投票 3 件, SR 投票 7 件, CIB 投票 14 件) に対応した。

(4) アジアモデルコード研究委員会

設計 WG では、ACMC (Asian Concrete Model Code) の Level 1, Document および Level 2, Document を融合し、ACF へ照会した。また、Level 3, Document の代替として土木

学会コンクリート標準示方書の英訳版（2007年版）を ACF のホームページからリンクすることとし、ACF-TB/TC 会議で承認を得た。

維持管理 WG では、ACMC の Level 2, Part 3 (ACMC2013) の改訂内容について討議し、ACMC Part3 の修正案を作成した。また、上記に関連し各国への診断手法のアンケート調査を昨年度から継続して実施した。

(5) JCI 規準委員会

「日本コンクリート工学会規準・指針の制定／改正に関する規定」の改正案を検討した。

3. 国際協力および交流

- (1) 4月14日～18日に、ミネアポリス(米国)にて開催された ACI Spring Convention に国際委員会の睦好宏史委員および JCI-ACI Collaboration Committee 丸山久一委員長を派遣した。3月22日～24日に、リノ(米国)にて開催された同 Convention に国際委員会の睦好宏史委員を派遣した。
- (2) 4月19日～25日に、テルアビブ(イスラエル)にて開催された fib Steering Committee 等に国際委員会の堺孝司委員を派遣した。
- (3) 8月22日～23日に、シンガポールで開催された OWICS 国際会議の支援を行った。
- (4) 9月1日に、パリ(フランス)にて開催された RILEM・TAC 会議に国際委員会の野口貴文委員を派遣した。
- (5) 2013年9月10日,11日に札幌にて開催された ACF-EC 会議および ACF-TB/TC 会議に、ACF 対応委員会から上田多門顧問ら2名およびアジアモデルコード研究委員会から杉山隆文委員長ら3名が参加し、今後の運営方針およびアジアコンクリートモデルコードの改正等について審議した。
- (6) 9月17日,18日に、スラバヤ(インドネシア)にて開催された ACF サステナビリティフォーラムに ACF 対応委員会の野口貴文委員長および堺孝司委員を派遣した。
- (7) 12月12日,13日に、マドリード(スペイン)にて開催された ICCS16 打合せ会議に国際委員会の堺孝司委員を派遣した。また、ICCS Steering Board を国際委員会に設置した。
- (8) 12月16日～18日、カルカッタ(インド)にて開催された ASIA-PACIFIC CONCLAVE 2013 に山本武志氏を派遣した。
- (9) 1月28日～31日に、シドニー(オーストラリア)にて開催された第20回 ISO/TC71 総会および各 SC に、ISO/TC71 対応国内委員会等から8名を派遣した。
- (10) 本学会主催国際会議の下記の実行委員会にて準備を行った。
 - ① 1st International Conference on Concrete Sustainability (ICCS13)
開催日程：5月27日～29日、開催場所：東京
 - ② 3rd International Conference on Sustainable Construction Materials and Technologies(SCMT3)

開催日程：8月19日～21日、開催場所：京都

- (11) JCI-ACI Collaboration Committee (丸山久一委員長) を設置して、ACI-JCI ジョイントセミナーの準備を行った。

4. 受託研究事業

(1) 国際標準開発関連

昨年度に引き続き、アジアモデルコード研究委員会ならびに ISO/TC71 対応国内委員会の合同で、経済産業省からの受託業務「国際標準開発事業」(テーマ名「コンクリート構造物の被災低減と被災後の早期復旧・復興に資する技術に関する国際標準化」)に対応し、「コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント」、「コンクリートおよびコンクリート構造物の環境ラベリング、ならびに必要関連規格」、「コンクリート構造物の耐震診断および耐震補強」、「コンクリート補強用 FRP 材料」、「水道用プレストレストコンクリートタンクの簡易設計方法」および「壁式鉄筋コンクリート造建物の簡易耐震設計法」の6項目の国際標準開発を進めた。

また、アジアモデルコード研究委員会ならびに ISO/TC71 対応国内委員会から成果報告書を提出した。

(2) 研究委員会関連

FA サンド研究会からの委託である「フライアッシュと細骨材を事前混合したコンクリート用材料 (FA サンド) の品質基準および使用方法」に関する受託研究委員会にて、技術の概要、用途、標準化の方向性、JIS 原案、課題、実験研究の内容の検討を行った。

5. 出版事業

次の論文集、研究報告書、テキスト等を刊行した。

- 1) 「東日本大震災に関する特別委員会」報告書
- 2) 「コンクリート構造物のひび割れ進展評価手法に関する研究委員会」報告書
- 3) 「鉄筋腐食したコンクリート構造物の構造・耐久性能評価の体系化シンポジウム委員会」報告書・論文集
- 4) 「データベースを核としたコンクリート構造物の品質確保に関する研究委員会」報告書・シンポジウム論文集 (CD-ROM)
- 5) 「混和材積極利用によるコンクリート性能への影響評価と施工に関する研究委員会」報告書
- 6) Technical Committee Reports 2013 (JCI 研究委員会報告書要旨)
- 7) 「マスコンクリートソフト作成委員会」報告書 (JCMAC3 の理論・解析機能と土木学会コンクリート標準示方書改訂を受けて)
- 8) コンクリート工学年次論文集 第35巻 2013年 (CD-ROM版)
- 9) コンクリート技術の要点'13
- 10) 2013年度コンクリート技士研修テキスト
- 11) コンクリート診断技術'14

6. 会誌発行事業

(1) 会誌「コンクリート工学」

毎月1回刊行して会員に頒布した。

特集テーマは次のとおりである。

- | | |
|---------------------------|----------|
| 1) 暑中コンクリート | 平成25年5月号 |
| 2) 我が国のコンクリートの研究史と技術の発展 | 平成25年9月号 |
| 3) 多様化するハイブリッド構造の現状と今後の展開 | 平成26年1月号 |

(2) コンクリート工学論文集

オンラインジャーナルとして24巻(5月・9月)および25巻(1月・3月)をWEB(J-STAGE)に公開した。

(3) 英文ジャーナル 'Journal of Advanced Concrete Technology'

オンラインジャーナルとして Vol.11 (No.4~No.12) および Vol.12 (No.1~No.3) をWEB (J-STAGE) に公開した。

(4) 図書編集委員会

図書編集委員会にて、本委員会規定の制定、コンクリート工学編集委員会、コンクリート工学論文集編集委員会、文献調査編集委員会および Journal of Advanced Concrete Technology 編集委員会の各規定の改正を行った。

7. 広報事業

(1) 広報活動

- 1) 会誌「コンクリート工学」、本学会パンフレット、ホームページ等により活動状況等の広報活動を行った。
- 2) 「JCI 東日本大震災に関する特別委員会」の第二次提言についてプレスリリースを4月3日に行い、記者発表を4月10日に行った。
- 3) 国際会議 (ICCS13) の開催について記者発表を5月16日に行った。
- 4) 報告会オンデマンド配信のトライアルとして「第46回コンクリート技術講習会のダイジェスト版オンデマンド講習会」を3月6日に開催した。参加者は9名であった。

(2) 普及活動

コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針普及委員会で、指針の最新版である「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針 - 2013 -」および、2009年版の英語訳である「Practical Guideline for Investigation, Repair and Strengthening of Cracked Concrete Structures -2009-」に対しての利用者からの質問や講演会の要請に対する対応、あるいは、ひび割れ判定ソフトの改良による用途拡大等に関する検討を行い、ひび割れ指針の普及促進を目的とした活動を行った。平成25年度は主に以下の項目に関して議論し、具体的な活動を行った。

- ① 本指針2013版に対する質問対策や校正

- ・ 国内講習会の準備等を通じて指摘された確認事項などへの対応を行った。
- ② 本指針 2013 版の英語版の作成
 - ・ 2013 年版の英語版を完成させた。
- ③ 国内講習会の実施，および講師派遣要請への対応
 - ・ 東京，名古屋，金沢，大阪，大分，沖縄において，それぞれ国内講習会を開催した。
 - ・ 国際会議（SCMT3）の Keynote Lecture で大即委員長が本指針に関する紹介講演を行った。
 - ・ 英文雑誌(Journal of Chemistry and Chemical Engineering)に，本指針の紹介記事（論文）を投稿し，掲載された。
- ④ 次期改定に向けてのアンケート調査の実施および情報収集
 - ・ アンケートの結果を踏まえ，現行指針の抜粋版・構造物限定版の検討を行った。
- ⑤ 国内・海外事例の情報収集
 - ・ 大分県において橋梁を対象としたひび割れの実態調査を行った。
- ⑥ より使いやすいひび割れ判定ソフトの作成
 - ・ 判定ソフトのサンプルを地方自治体（群馬県）に配布し意見聴取を行った。

（3）電子情報化

電子情報化委員会にて，本学会全体に関わる情報の電子化および情報技術の有効活用に関しての審議および会員やコンクリート関係者への電子情報の提供やコンクリート技術の一般への発信を主要な活動として，以下の項目に関する活動を行った。

- ・ メールニュースの配信および閲覧者増加の方策の検討
- ・ 会員専用ページ（動画配信や専門家向けページ）の有効利用についての検討
- ・ JCI ホームページの意義と運営方法に関する議論
- ・ JCI ホームページの管理運営を行う新委員会発足に関する議論
- ・ JCI 発行物の電子公開
- ・ 研究委員会ホームページの作成支援ならびに更新の推進
- ・ 年次大会向け査読投稿システムの検討
- ・ 年次大会用のアプリに関する議論

（4）JCI 創立 50 周年記念事業

JCI 創立 50 周年記念事業実行委員会にて総務部会，講演部会，DVD 作成部会，出版物刊行部会の 4 部会を設置し，準備を進めた。総務部会では本事業にかかわる予算管理を行うとともに，新規会員制度および記念品等の検討，講演部会では ACI との共同事業および軍艦島国際会議の準備，DVD 作成部会ではその内容の検討と制作会社の選定，出版刊行物部会では 50 周年史と写真集等の内容の検討を行った。

8. 特別委員会

（1）既設コンクリート構造物の維持管理と補修・補強技術に関する特別委員会

本特別委員会は，既設コンクリート構造物の維持管理が急務となる世間状況を鑑み，コ

ンクリート構造物の維持管理、補修・補強技術に関する技術の集大成を図り、維持管理に関する提言を行うために平成 25 年度より 2 年間の予定で活動を開始した。委員数は 57 名であり、委員会には、①基本戦略小委員会、②点検・評価小委員会、③維持・補修補強小委員会、④寿命予測小委員会、⑤LCM 小委員会の 5 つの小委員会を設けた。今年度は、委員会、主査幹事会および各小委員会を定期的に開催し、各小委員会別に技術の現状と問題点を整理し、提言に結びつけるよう活動を行った。

(2) 未利用資源の有効利用に関する FS 委員会

本特別委員会は、FS 委員会として次年度以降の活動を見据え、これまでコンクリートには十分には使用されてきていない材料を使用するための論点整理を 4 つの WG にて行った。WG1 (材料 WG) は利活用が望まれる材料の現状と課題の論点整理、WG2 (利用技術 WG) は利用技術についての整理と資源リサイクル制度の適用技術の検討、WG3 (実務 WG) は未利用資源の実構造物への適用時の課題についての整理、WG4 (海外 WG) は海外工事での規格外品、低品質な材料の使用の現状調査、材料の国際規格の調査をそれぞれ行い、本学会内部の報告書としてまとめた。

(3) 関連学協会との共同活動

本学会は特別委員会の成果の広報活動の一環として日本学術会議「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」へ参加している。

12 月 2 日に、日本学術会議主催のシンポジウム「南海トラフ地震に学界はいかに向き合うか」において、「発災後の回復力の強化」と題して復旧・復興の建設用資材不足を補うための方策等に関して、三橋博三前副会長が講演した。

[公 2 講演会等事業]

1. 年次大会事業

(1) コンクリート工学年次大会

コンクリート工学年次大会 2013 (名古屋) を平成 25 年 7 月 9 日 (火) ~11 日 (木) の 3 日間、名古屋国際会議場において開催した。

梅原秀哲実行委員長の開会の辞、魚本健人会長の挨拶、阿部道彦副会長による JCI 活動報告に続いて次の行事を行った。

1) 第 35 回コンクリート工学講演会

講演題数 589 編 参加者 1,615 名

2) 特別講演会 聴講者数 1,035 名

名古屋大学特別教授、素粒子宇宙起源研究機構長、2008 年度ノーベル物理学賞受賞
益川 敏英氏

演題 「現代社会と科学」

3) 生セミナー

テーマ「コンクリート構造物の信頼性向上への提言

～打込み時スランプと生コンのグレード分け～」

参加者 528 名

4) 見学会

- | | | |
|------------------------------------|-----|-----|
| ① 名古屋高速道路公社交通管制室と博物館明治村 | 参加者 | 28名 |
| ② 中日本高速道路(株)新東名高速道路臼子橋と設楽原 PA 建設工事 | 参加者 | 23名 |
| ③ 中部電力(株) 浜岡原子力発電所 | 参加者 | 29名 |

5) 日本コンクリート工学会賞（論文賞・技術賞・作品賞）受賞者による記念講演

6) 大会懇親会 参加者 360名

7) 年次論文奨励賞 60名の表彰（副賞：コンクリート構造物の打音検査に用いるハンマー）

2. 講演会・講習会・シンポジウム等

(1) コンクリート技術講習会

第46回コンクリート技術講習会を、10月2日から10月29日にかけて、会期2日間で全国8都市（札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡・沖縄）において開催した。受講者は、全国で610名（前年度557名）であった。

(2) シンポジウム・セミナー・報告会

- 1) 「東日本大震災に関する特別委員会」の報告会を4月24日に品川区立総合区民会館“品川きゅりあん”にて、また、5月8日に大阪科学技術センターにて開催した。参加者数は、合計258名であった。なお、特別講演として「チェルノブイリ原子力発電所事故－コンクリート構造物に及ぼした影響－」を行った。
- 2) 「コンクリートの環境側面に関する講習会」を6月11日に東京大学弥生講堂一条ホールにて、また6月13日にチサンホテル新大阪にて開催した。参加者数は合計109名であった。
- 3) 「コンクリート構造物のひび割れ進展評価手法」に関するシンポジウムを7月31日に東京大学小柴ホールにて開催した。参加者は107名であった。
- 4) 「マスコンクリートソフト作成委員会」報告会（JCMAC3の理論・解析機能と土木学会コンクリート標準示方書改訂を受けて）を8月8日に法政大学市ヶ谷田町校舎マルチメディア教室にて開催した。参加者数は71名であった。
- 5) 「混和材積極利用によるコンクリート性能への影響評価と施工に関する研究委員会」報告会を8月23日に東京大学農学部弥生講堂（東京）にて、また、8月28日に建設交流館（大阪）にて開催した。参加者数は合計160名であった。
- 6) 「データベースを核としたコンクリート構造物の品質確保に関する研究委員会」報告会を9月10日に東京大学武田記念館にて開催した。参加者数は103名であった。
- 7) 「3次元マスコンクリート温度応力解析ソフト JCMAC3 講習会」を9月17日、18日に北海道建設会館にて、また、3月17日、18日に大阪科学技術センターにて開催した。参加者数は、合計19名であった。
- 8) 「鉄筋腐食したコンクリート構造物の構造・耐久性能評価の体系化シンポジウム」を11月14日に中央大学駿河台記念館にて開催した。参加者数は100名であった。

- 9) 性能設計対応型ポーラスコンクリートの施工標準と品質保証体制の確立に関するシンポジウムを12月21日に名古屋名城大学名駅サテライト多目的室にて開催した。参加者数は85名であった。
- 10) 「東日本大震災に関する特別委員会」の追加報告会を3月3日に高松ホテルパールガーデンにて、また3月10日に北海道大学学術交流会館にて開催した。参加者数は合計44名であった。

(3) 支部主催のシンポジウム・セミナー・報告会

- 1) (北海道支部) 支部総会特別講演「既存コンクリート構造物の構造特性把握技術の現状調査研究委員会」成果報告会 5月13日
- 2) (北海道支部) 20周年記念総会・記念講演「北海道に建設されたコンクリート構造物」5月14日 北海道大学名誉教授 大沼博志 氏 他4名
- 3) (北海道支部) 20周年記念見学会兼コンクリートの日 in HOKKAIDO 見学会
9月11日・12日
見学場所：北海道新幹線新函館駅(仮称)建設現場, 函館江差自動車道建設現場
- 4) (北海道支部) 出前講座「収縮低減材料によるコンクリートひび割れ防止技術の現状」10月9日 北海道大学大学院 名和豊春 氏
- 5) (北海道支部) 出前講座「寒冷地の海洋環境下に長期間暴露したコンクリートの耐凍害性」10月9日 北見工業大学 井上真澄 氏
- 6) (東北支部) 「コンクリート診断士の技術研鑽のための勉強会」10月15日
- 7) (東北支部) 「コンクリート構造物の品質確保に関するシンポジウム」3月12日
- 8) (関東支部) 支部総会特別講演会「コンクリート舗装に関する最近の動向と技術的課題」5月10日 太平洋セメント(株) 梶尾聡 氏
- 9) (関東支部) 支部総会特別講演会「首都高速道路の構造物の現況と長寿命化への取り組み」5月10日 首都高速道路(株) 中村好伸 氏
- 10) (関東支部) 「トレント博士を迎えたジョイントシンポジウム」4月10日
- 11) (関東支部) 埼玉地区：講習会「コンクリート構造物の施工中に生じた不具合に関する講習会」7月19日
- 12) (関東支部) 群馬地区：講習会「JSCE 関東支部群馬会・関東支部群馬地区共催：コンクリートの表層品質検査」10月31日
- 13) (関東支部) 長野地区：見学会「浅川ダム現地施工と松本地区文化財建造物の見学会」11月2日
- 14) (関東支部) 神奈川地区：見学会「旧横須賀製鉄所ドライドック見学会」1月15日
- 15) (関東支部) 埼玉地区：講習会「コンクリート構造物に生じた不具合の対処方法と最近のコンクリート技術の現状」2月19日
- 16) (関東支部) 茨城地区：講演会「コンクリート構造物の維持管理に関する講演会」3月11日
- 17) (関東支部) 栃木地区：研究発表会「栃木地区研究発表会」3月3日

- 18) (中部支部)「第9回学生研修会」9月19日, 20日
 ・開催場所: 神戸市・淡路市(淡路大震災記念 人と防災未来センター, 橋の科学館, 野島断層保存館 等)
- 19) (中部支部)「北陸道路研究会60周年記念シンポジウム」
 「コンクリート橋の維持管理とASRによる劣化問題の解決策」9月20日
- ① 「わが国の反応性骨材の岩石・鉱物学的特徴」
 (株)太平洋コンサルタント 広野真一 氏
 - ② 「長期暴露試験結果から見るわが国の骨材のASR反応性」
 (独) 土木研究所 古賀裕久 氏
 - ③ 「撤去桁の載荷試験のデータベース化」
 (独) 土木研究所 木村嘉富 氏
 - ④ 「フライアッシュの活用によるPC桁の高耐久化」
 (株)ピーエス三菱 鈴木雅博 氏
- 20) (中部支部) 講演会「新時代を迎えた高速道路を支える技術の現状と今後の展望 ー道を通じて感動を人へ, 世界へー」11月28日
- ① 「新東名高速道路(御殿場～引佐間)の建設事業の概要と整備効果」
 中日本高速道路(株) 和田宣史 氏
 - ② 「NEXCO中日本のコンクリート構造物に関する技術の現況と課題」
 中日本高速技術マーケティング(株) 上東泰 氏
- 21) (近畿支部) 特別講演会「阿倍野ハルカス300mの構造設計」5月14日
 (株)竹中工務店 佐分利和宏 氏
- 22) (近畿支部) 第1回 JCI 近畿支部連続講演会 7月3日
- ① 「南海トラフ巨大地震で想定される長周期地震動と津波の特性」
 東京大学地震研究所 古村孝志 氏
 - ② 「建物に大きな被害を引き起こす地震動」
 筑波大学大学院 境有紀 氏
 - ③ 「南海トラフ巨大地震に対する設計用地震動の作成の取組み」
 名古屋大学 宮腰淳一 氏
- 23) (近畿支部) 第2回 JCI 近畿支部連続講演会 9月30日
- ① 「より一層の復興資材の活用に向けた地盤環境工学の取組み」
 京都大学大学院 勝見武 氏
 - ② 「震災から2年半～見えてきた諸課題～」
 東北大学大学院 久田真 氏
- 24) (近畿支部) 第3回 JCI 近畿支部連続講演会 12月6日
- ① 「コンクリート構造物の火害～調査方法,津波後火災の実例,今後の展開～」
 (一財) 日本建築総合試験所 阪口明弘 氏
 - ② 「道路構造物の耐火技術 ～設計・施工の事例及び今後の展望～」
 首都高技術(株) 土橋浩 氏
- 25) (近畿支部) 第4回 JCI 近畿支部連続講演会 3月12日
- ① 「地震で被災したRC造建築物の残存耐震性能と被災度の判定
 ～近年の地震被害と被災度区分判定基準2014年改訂版の要点～」

- 東北大学大学院 前田匡樹 氏
- ② 「コンクリート橋梁を叩いて診る方法」
大阪大学大学院 鎌田敏郎 氏
- 26) (中国支部) 研究委員会報告会「ごみ溶融スラグの構造用コンクリートへの活用調査研究委員会報告」6月25日
- 27) (中国支部)「低強度コンクリートの既存建築物の耐震診断と耐震補強に関するシンポジウム」7月13日
- 28) (中国支部) JCI 中国支部平成25年度第1回講演会 12月16日
- ① 特別講演「東日本大震災に学び防災を考える」
広島工業大学 十河茂幸 氏
- ② 「非破壊試験を活用した表層品質検査への展開」
広島大学大学院 半井健一郎 氏
- ③ 「海外の地震被害調査とRC建物の構造性能評価」
広島大学大学院 日比野陽 氏
- 29) (中国支部)「わかりやすいコンクリート」講習会 1月10日
- 30) (四国支部) 特別講演「我が国の建設産業の将来展開」4月12日
高知工科大学 國島正彦 氏
- 31) (四国支部)「フライアッシュコンクリートの耐久性評価と普及に関する講習会」
7月25日
- 32) (四国支部)「鉄筋コンクリート造耐震壁の開口の取り扱いに関する研究委員会—RC造耐震壁の開口形状と開口補強方法に関する実験から得たこと—」7月27日
東京大学地震研究所 細川洋治 氏
- 33) (四国支部)「鉄筋コンクリート造耐震壁の開口の取り扱いに関する研究委員会—鉄筋コンクリート構造の設計への実験と解析の役割—」12月7日
千葉大学 野口博 氏
- 34) (四国支部)「生セミナーin香川」3月17日
- ① 「コンクリートの強度に及ぼす養生条件に関する研究委員会」の成果報告会
② 「四国の生コン技術力活性化委員会」の成果報告会
- 35) (四国支部) 見学会 11月18日
場所：鹿野川ダム改造事業
- 36) (九州支部) 講習会「コンクリート構造物の劣化実態の評価分析委員会」中間報告会 9月5日

3. 国際会議, 国際シンポジウム等

- 1) 1st International Conference on Concrete Sustainability(ICCS13) を5月27日～29日に東京にて開催した。参加者数は245名であった。
- 2) 3rd International Conference on Sustainable Construction Materials and Technologies (SCMT3) を8月19日～21日に京都にて開催した。参加者数は506名であった。

[公 3 表彰事業]

1. 学会賞

2013年日本コンクリート工学会賞（論文賞，技術賞，作品賞，奨励賞，功労賞）に選考されたのは論文賞3件，技術賞4件，作品賞2件，奨励賞2件，功労賞12名で，通常総会に引き続いて行われた贈呈式において表彰された。

(1) 論文賞

- 1) Enhanced Model and Simulation of Hydration Process of Blast Furnace Slag in Blended Cement

Yao Luan (東京大学)
石田 哲也 (東京大学)
名和 豊春 (北海道大学)
佐川 孝広 (日鉄住金セメント株)

- 2) An Investigation into the Long-Term Excessive Deflection of PC Viaducts by Using 3D Multi-scale Integrated Analysis

大野 元寛 (University of Michigan)
千々和伸浩 (東京大学)
Benny Suryanto (Heriot-Watt University)
前川 宏一 (東京大学)

- 3) コンクリートの耐凍害性に及ぼす気泡組織の影響 (総合題目)

坂田 昇 (鹿島建設 株)
菅俣 匠 (BASF ジャパン株)
林 大介 (鹿島建設 株)

(2) 技術賞

- 1) 1,000m超の長距離圧送を実現したチクソトロピー性を有するモルタル吹付け工法

笹谷 達也 (日特建設株)
藤原 浩巳 (宇都宮大学)
長澤 和彦 (宇都宮大学)
浜子 正 (日特建設株)

- 2) F_c150N/mm^2 コンクリート・ $780N/mm^2$ 鋼材のCFT柱を用いた超高層建物の設計および施工

松本 修一 (大成建設株)
後藤 和正 (大成建設株)
黒岩 秀介 (大成建設株)
高瀬 洋一 (大成建設株)

- 3) 尿素を用いたコンクリートのRCラーメン高架橋への適用

田中 博一 (清水建設株)

石本 晴義 (清水建設株)
野田 宏昭 (九州旅客鉄道株)
綾野 克紀 (岡山大学)

4) 鉄道営業線近接・直上における HPCa 工法を適用したラーメン高架橋の構築

服部 尚道 (東急建設株)
黒岩 俊之 (東急建設株)
早川 正 (東急建設株)
吉住 陽行 (東急建設株)

(3) 作品賞

1) 三田ベルジュビル

田村 彰男 (株竹中工務店)
若林 博 (株竹中工務店)
岩間 和博 (株竹中工務店)
和田 一彦 (株竹中工務店)
小早川 泉 (株竹中工務店)

2) 裏高尾橋

黒田 健二 (中日本高速道路株)
牟田 広繁 (中日本高速道路株)
松本 卓士 (中日本高速道路株)
渡辺 義光 (鹿島建設株)
須田久美子 (鹿島建設株)

(4) 奨励賞

1) 円筒型枠を用いた膨張コンクリートの拘束膨張試験方法の提案 (総合題目)

辻埜 真人 (清水建設株)

2) 鉄筋コンクリート構造物の地震損傷評価体系の構築に関する基礎的研究 (総合題目)

田嶋 和樹 (日本大学)

(5) 功労賞

江渡 正満	桂 修	橘高 義典
新藤 竹文	棚野 博之	中井 裕司
永山 勝	並木 哲	前川 宏一
真野 孝次	三井 健郎	宮澤 伸吾

2. 支部表彰

支部別に以下の表彰が行われた。

(1) 北海道支部

- 支部功績賞 1 件，支部優秀学生賞 3 名
- (2) 東北支部
論文賞 2 件，技術賞 1 件，奨励賞 3 件
- (3) 中国支部
コンクリートマイスター認定者 4 名
- (4) 九州支部
支部長表彰
大学院 21 名，大学 24 名，高専 3 名，専修 2 名 合計 50 名

Ⅲ 収益事業

[収 1 資格付与事業]

1. コンクリート技士・同主任技士資格制度事業

(1) コンクリート技士・同主任技士試験

11月24日(日)に、全国9都市(札幌、仙台、東京(習志野市)、名古屋、大阪、広島、高松、福岡、沖縄)の試験場において、コンクリート技士試験およびコンクリート主任技士試験を実施した。

受験者は全国で技士 8,130 名，主任技士 3,270 名で，合格者は技士 2,342 名(合格率 28.8%)，同主任技士 422 名(合格率 12.9%)であった。

(2) コンクリート技士・同主任技士の登録

コンクリート技士試験・同主任技士試験合格者からの申請に基づき，コンクリート技士 2,323 名(登録率 99.4%)，同主任技士 421 名(登録率 99.8%)の登録を行った。また，登録有効期間(4年)満了となる登録者，および未登録者からの申請により，更新・再登録を行った。この結果，平成 26 年 4 月 1 日現在の登録者数は，コンクリート技士 42,550 名，同主任技士 9,941 名となった。

(3) コンクリート技士研修

コンクリート技士研修会を，7月1日から8月23日にかけて，全国18都市(札幌、盛岡、仙台、新潟、大宮、東京、横浜、浜松、名古屋、金沢、松本、大阪、松江、広島、高松、福岡、熊本、沖縄)において合計 33 回開催した。受講者は全国で 8,671 名(前年度 9,164 名)であった。

コンクリート技士試験・同主任技士試験の本年度の受験者と合格者および平成 26 年 4 月 1 日における登録者数の業種別内訳は，次のとおりである。

業 種	技士試験		主任技士試験		登録者	
	受験者	合格者	受験者	合格者	技士	主任技士
官公庁・学校	197	113	51	15	1,605	290
設計・コンサルタント	474	141	86	10	2,538	660
セメント	153	57	48	11	630	446
混和材・骨材等	118	41	120	9	781	418
生コンクリート	1,908	448	1,948	184	9,819	3,518
コンクリート製品	709	158	180	19	3,570	565
建設	3,670	1,116	636	143	19,664	3,077
電力・ガス	93	44	18	7	417	106
鉄道	210	72	14	2	553	65
道路	130	35	14	2	427	59
その他	468	117	155	20	2,546	737
合 計	8,130	2,342	3,270	422	42,550	9,941

2. コンクリート診断士資格制度事業

(1) コンクリート診断士講習会

第13回コンクリート診断士講習会を4月1日から4月26日にかけて全国9都市(札幌, 仙台, 東京, 名古屋, 大阪, 高松, 広島, 福岡, 沖縄)において合計13回開催した。受講者は, 4,602名(前年度3,939名)であった。

(2) コンクリート診断士試験

7月21日(日)に, 全国9都市(札幌, 仙台, 東京, 名古屋, 大阪, 広島, 高松, 福岡, 沖縄)においてコンクリート診断士試験を実施した。

全国の実験者数は5,241名(前年度4,945名)で, 合格者は694名(合格率13.2%)であった。

(3) コンクリート診断士の登録

診断士試験合格者からの申請に基づき, 692名(登録率99.7%)の登録を行った。また, 登録有効期間(4年)満了となる登録者, および未登録者のうちコンクリート診断士研修を受講した2,015名の更新・再登録を行った。この結果, 平成26年4月1日現在のコンクリート診断士登録者数は10,500名となった。

(4) コンクリート診断士研修会

第9回コンクリート診断士研修会を, 10月1日から同24日にかけて, 全国7都市(札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡)において合計9回開催した。研修では, 「コンクリート診断士研修会調査報告書'13」を資料として, 診断技術の動向, 特別講演に続き, 研修の後半でコンクリート診断の模擬体験のための演習を実施した。2,015名(前年度

1,461名)が受講した。

コンクリート診断士の本年度の受験者と合格者および平成26年4月1日における登録者数の業種別内訳は、次のとおりである。

業 種	受験者	合格者	登録者
官庁	58	8	107
独立行政法人・事業団	47	12	106
地方自治体・地方公社	180	56	498
大学・学校	6	3	59
設計事務所	68	6	158
コンサルタント	1,205	148	2,441
エンジニアリング	86	15	164
セメント	55	8	302
混和材料	51	5	151
生コンクリート	399	24	468
コンクリート製品	148	16	284
建設	2,306	278	4,229
調査診断	131	22	296
試験	52	4	63
電力・ガス	48	7	207
鉄道	94	28	188
道路	128	28	244
その他	179	26	535
合 計	5,241	694	10,500

[収2 その他の収益事業]

1. コンクリートテクノプラザ2013

コンクリート工学年次大会2013(名古屋)と併行してコンクリートテクノプラザ2013を開催した。

展示74件(82小間) 入場者数 延べ約5,000名

技術紹介セッション45件

IV その他

1. 名誉会員の推挙

第 46 回定時社員総会で、池永博威氏、清水昭之氏、城 攻氏、中田慎介氏、平澤征夫氏、福沢公夫氏、榊田佳寛氏、山本泰彦氏の 8 名を名誉会員として推挙した。

2. 長期事業・財政安定化委員会

昨年度策定した事業費縮減策に対するフォローアップ、本学会の長期的かつ健全な収支状況を確保するために必要な諸事業の見直し、対策等を検討・答申した。委員会内規等を整備するためのひな型、資格部門の組織改編、コンクリート主任技士における研修制度の導入方法等の検討を行った。

3. 定款・規則改定委員会

12 月 26 日に開催した臨時社員総会の議案である、定款の一部改定について審議した。また、JCI 特許等知的財産権検討部会を設置し、本学会の特許出願への対応についての考え方を検討するとともに「コンクリートのひび割れ制御方法」の特許審査請求の是非について検討を行い、3 月 27 日に同方法の特許審査請求を行った。

4. 会員の動向

会員種別	平成 24 年度末 会員数	平成 25 年度中の異動			平成 25 年度末 会員数
		入会	退会	異動	
正会員	6,659	327	762	305	6,529
学生会員	364	241	19	-305	281
第 1 種団体会員	38	1	0	-	39
第 2 種団体会員	308	12	8	-	312
計	7,369	581	789	0	7,161

*異動：学生会員から正会員への変更等

5. 役員の異動

(1) 平成 25 年 6 月 21 日付で退任(任期満了)した役員は次の通りである。

副会長 丸山久一

理事 池田博之、内田裕市、大久保孝昭、岡本享久、小川洋二、栗田守朗、
城國省二、武若耕司、月永洋一、戸田和敏、藤原浩巳

監事 佐藤孝一

(2) 平成 25 年 6 月 21 日付で就任した役員は次の通りである。

副会長 宮川豊章

理 事 市之瀬敏勝，伊藤康司，宇治公隆，加賀谷誠，柏木正和，菊池健児，
木水隆夫，並木哲，西山峰広，細谷多慶，溝口光男，溝渕利明

監 事 入矢桂史郎

(3) 平成 25 年 8 月 24 日に退任（死亡）した役員は次の通りである。

理 事 加賀谷誠

(4) 平成 25 年 12 月 26 日に就任した役員は次の通りである。

理 事 遠藤孝夫

以上